

みかわさ

2017年7月

第57号

浄土真宗本願寺派
福岡教区御笠組



釈尊の涅槃（入滅）

インド・ガンダーラ 2~3世紀（筆者撮影）

悟りを得られてから四十五年間、釈尊は伝道教化の歩みを続けてこられました。最晩年の釈尊の様子を伝える『大パリニッバーナ経』によれば、鍛冶工チュンダが供養として差し上げた食事を召された直後、釈尊は「赤い血がほとばしり出る死に至らんとする激しい苦痛」におそわれ、さらに衰弱が進みました。

痛みは治まりましたが、クシナーラーという小さな村に到着された時、釈尊は傍に仕えていたアーナンダに告げられました。「さあ、アーナンダよ。私のために、二本並んだサーラ樹（沙羅双樹）の間に、頭を北に向けて床を用意してくれ。私は疲れた。横になりたい」と。

その時、遍歴行者スバッダが、釈尊に会わせてくれるよう頼みます。アーナンダは何度も断りますが、スバッダの熱意は釈尊に伝わり、直接説法を受けた彼は、釈尊の最後の直弟子となりました。

「すべてのものは移りかわる。怠ることなく精進せよ」という臨終の教えを伝え、釈尊は涅槃（ニッバーナ、滅度とも訳す）に入り八十年の生涯を終えられました。中國から日本への伝承では、涅槃に入られた（仮滅）日は、二月十五日とされています。頭北面西右脇の姿で涅槃の時を迎えた釈尊の傍で、悲嘆にくれる人々の姿がみられます。釈尊の下で瞑想をしているのがスバッダ。その左に執金剛神が彫られています。

題字：小山実千代（伯東寺坊守） 解説：中川正法（西蓮寺住職）

伝灯奉告法要御満座の消息

昨年の十月一日よりお勤めしてまいりました伝灯奉告法要は、本日ご満座をお迎えいたしました。十期八十日間にわたるご法要を厳肅盛大にお勤めできましたことは、仏祖のお導きと親鸞聖人のご遺徳、また代々法灯を伝えてこられた歴代宗主のご教化によることは申すまでもなく、日本全国のみならず、全世界に広がる有縁の方々の報恩謝徳のご懇念のたまものと、まことに有り難く思います。

昨年の熊本地震から一年を経過し、甚大な被害をもたらした東日本大震災から六年が過ぎました。改めてお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。どれほど時間が経過しても心の傷は癒されることなく、深い痛みを感じてお過ごしの方も多くおられるでしょう。なかでも、原子力発電所の事故による放射性物質の拡散によつて、今なお故郷に帰ることができず、不自由な生活を余儀なくされている方が多くおられます。思うままでに電力を消費する便利で豊かな生活を追求するあまり、一部の方々に過酷な現実を強いるという現代社会の矛盾の一つが、露わになつたということができます。

自分さえ良ければ他はどうなつてもよいという私たちの心にひそむ自己中心性は、時として表に現れます。このような凡愚の身の私たちではありますが、ご本願に出遇い、阿弥陀如来のお慈悲に摂め取られて決して捨てられることのない身ともなっています。そして、その大きな力に包まれているという安全感は、日々の生活を支え、社会のための活動を可能にする原動力となるでしょう。

凡夫の身であることを忘れた傲慢な思いが誤つてているのは当然ですが、凡夫だから何もできないという無気力な姿勢も、親鸞聖人のみ教えとは異なるものです。即如前門主の『親鸞聖人七百五十回大遠忌法要御満座を機縁として「新たな始まり」を期する消息』には、

凡夫の身でなすことは不十分不完全であると自覚しつつ、それでも「世のなか安穏なれ、

ユウベル
積善社

筑紫斎場

太宰府市吉松4丁目6-1 (青葉台入口信号角)

☎0120-14-0789 (フリーダイヤル)

大規模葬から家族葬まで…
もしもの時に安心な…互助会会員募集中

(株)のがみ 善光会館 筑紫会場

筑紫野市杉塚6丁目11-1 Tel 921-4242(代)

御笠組 巡番報恩講 法要

平成二十九年 五月三十一日

龍谷門主 釋 専如

◆ご講師	岡本 法治師 (本願寺布教使)
◆会所	大願寺
◆日時	十月二十一日(土) 十月二十二日(日)
稚児行列	午後二時



「仏法ひろまれ」と、精一杯努力させていただきましよう。
と記されています。このように教示された生き方が念佛者にふさわしい歩みであり、親鸞聖人のお心にかなつたものであるといたいたいと思います。このことは、ご法要初日に「念佛者の生き方」として詳しく述べさせていただきました。

今、宗門が十年間にわたる「宗門総合振興計画」の取り組みを進めておりますなか、来る二〇一三(平成三十五)年には宗祖ご誕生八百五十年、そして、その翌年には立教開宗八百年という記念すべき年をお迎えいたします。

改めて申すまでもなく、その慶讃のご法要に向けたこれから的生活においても、私たち一人ひとりが眞実信心をいただき、お慈悲の有り難さ尊さを人々に正しくわかりやすくお伝えすることが基本です。そして同時に、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはできなくても、それぞれの場で念佛者の生き方を目指し、精一杯努めさせていただくことが大切です。

み教えに生かされ、み教えをひろめ、さらに自他ともに心安らぐ社会を実現するため、これからも共々に精進させていただきましょう。



はせがわ
つなぎます。心と、いのちと、人。

霊園・墓所・墓石のご相談も承ります。

太宰府インター店 太宰府インター
グッディそば ☎092-503-0800

草 [SOUEN] 苑

美しが丘 TEL 092-919-0880 FAX 092-919-0881
草 苑 筑紫野市美しが丘北3丁目12-4



え しん に 恵信尼さまは？



一九二一(大正十)年、本願寺の宝物庫の中から親鸞聖人の末娘覚信尼さまに宛てられたお手紙が偶然発見されました。手紙を書いたのは越後で暮らされていた恵信尼さまです。お手紙は全部で十通、一二六三(弘長三)年から一二六八(文永五)年までのもので、内訳は財産の譲り状二通、親鸞聖人の動静に関するものが四通、ご自身の生活について書かれたものが四通です。その他『大無量寿経』を仮名で写されたものもありました。これらは、鎌倉時代に女性によって書かれた貴重な文献で、国の重要文化財に指定されています。『恵信尼文書』あるいは『恵信尼消息』と呼び、聖人の伝記研究では、欠かすことの出来ない貴重な資料です。

この『恵信尼文書』が発見されるまでは、聖人のご生涯については、ひ孫覚如さまによる『御伝鈔』などに記されてはいますが、細かなことはほとんどわかりませんでした。そのために、「聖人は歴史的に存在しない架空の人物である」という意見もありました。

しかし、この『恵信尼文書』の発見で、聖人が歴史上紛れもなく存在されており、比叡山では堂僧という立場で修行をされていたこと、恵信尼さまとご結婚され、お子さまをもうけて在家の生活をなさっていたことなどがはっきりしたのです。

紙面の関係上お手紙を詳しく紹介することは出来ませんが、お手紙には、恵信尼さまが聖人を「殿」と呼ばれていたことや、お子さまがた、孫たちのこと、ご自身の老いの現状などが記され、実生活のご様子を読みとることができます。また、聖人がお念佛に出遇われるいきさつや、觀音菩薩の化身と尊敬しながら接してきたことなど、遠く離れた末娘に、聖人のみ教えの尊さや、ありし日の聖人が家族とともに苦楽を共にしながら生活なさっていた様子を伝え、同時に念佛を依りどころとして生きることの大切さがしるされました。

(『恵信尼さまとの出遇い』仏婦総連盟発行を参考にしました)

願應寺 中川清昭(釋清昭)

JA筑紫 誠心誠意を大切にします。もしものとき… お問い合わせ

JA筑紫農業協同組合 (JA筑紫共栄会 やすらぎ会館)

〒818-0057 福岡県筑紫野市二日市南2-1-3
TEL(092)924-3027/FAX(092)928-1394

組合員・NEWにじの会 会員募集!!

お仏壇の よーかど

お仏壇・仏具のご相談はお電話を！

筑紫野市二日市中央通商店街
☎092-924-1111

専如門主伝灯奉告法要を 終えて

団体参拝委員長 伯東寺 小山至朗（釋至朗）



2016(平成28)年10月1日から2017(平成29)年5月31日まで10期80日間、伝灯奉告法要が厳集されました。この法要は、境内を訪れた数になります。

とめられる法要。今法要の参拝者数は約15万4千人と、協賛行事等の参拝者を含めると約45万人が境内

ご門主に伝えられたことを、仏祖の御前にご門主が告げられるとともに、お念佛のみ教えが広く伝わることを願い、つとを願い、つしかし、何よりも参拝された皆さんが無事に帰つてこられたことが一番でした。

宗祖親鸞聖人があきらかにされた「淨土真宗のみ教え」が、聖人から数えて第25代となる専如ご門主に伝えられたこと、この法要参拝の為に5年前に団体参拝実行委員会を発足させ準備を進めてまいりましたが、力不足で皆様にご不便をおかけしたことと、ともに、お念佛のみ教えが広く伝わることを願い、つしかし、何よりも参拝された皆さんにとつて生きる依りどころとなります

ご門主とともに、これか

御笠組からのも

第1班 2016(平成28)10月3日～10月5日 104名、

第2班 2017(平成29)年3月13日～3月15日 114名、計218名



合掌礼拝の生活

お仏壇のコガ

太宰府店

〔駐車場完備〕

太宰府市都府楼南1丁目1-32 ☎(092)923-8080

御墓石・記念碑・造園・石材加工・その他石工事
設 計・施 工

石のことなら気軽に御相談下さい。

(有)矢ヶ部石材

代表取締役 矢ヶ部 清隆

筑紫野市大字本道寺106-4 ☎ 924-5574
(FAX) 924-8212

九州豪雨災害支援活動



7月5日からの記録的な豪雨により福岡・大分両県で甚大な被害が出ました。御笠組に近い上下組(朝倉地区)では土砂災害等によりご門徒9名(7月14日現在)が亡くなるなど大変な被害となりました。いまだに避難生活をされているご門徒も大勢いらっしゃいます。謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。



サンダルなどの生活支援物資、ボランティア活動用のタオル・雑巾を募りましたところ、たくさんの方々にご協力をいたしました。7月11日に組内若院さん方とともに、生活支援物資は朝倉市の甘木体育馆へ、タオル・雑巾は小郡市の真浄寺さまへお届けいたしました。



支援へのご協力ありがとうございました。

現在は福岡教区においても義援金の受付をしています。

御笠組 明福寺 鷺山智英

今回「組報みかさ」は、伝灯奉告法要御満座の消息を掲載することに致しました。(ご消息とは、ご門主さまからのお手紙です。)

第二十五代専如ご門主が、浄土真宗のみ教え(法灯)を継承されたことを阿弥陀如来と親鸞聖人の御前に奉告され、そのみ教えが広く伝わることを願い「ご消息」を発布されました。

長い文章ですが割愛する事なく全文掲載致しました。「ご消息」とはどの様なものか、又、どの様な内容なのか、お読みになられ、何を伝えようとなされておられるのか、ぜひ、み取って下さい。

義援金受付先
銀行 黒門支店 普通預金
名義 災害対策費
代表 菊池慈峰
口座番号 1278730

編集後記



法律相談
初回相談無料
毎週月曜日～金曜日
午前8時半～午後6時
※弁護士が相談に応じます
◎プライバシーは必ず守られます。
問い合わせ
福岡教区教務所
[092]771-1908

~大切な人を送る時、私たちができること~

ご葬儀を真心込めてお手伝いします

有限会社 **筑紫葬祭**
葬儀式場 セレモニー 筑紫
本社/セレモニー 筑紫
〒818-0059 福岡県筑紫野市塔原東4丁目3-5
TEL 092-925-4444
FAX 092-925-4949